

2014年11月13日「神の愛と希望」

＜ 聖書箇所 ＞ 「ローマ人への手紙 5章1節～5節」

このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。

＜ 説教抜粋 ＞ 「神の愛と希望」

本日の説教の題名は、「神の愛と希望」です。今日は、「神の愛」と「希望」の関係について、共に考えたいと思います。「このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。それだけではなく、患難をも喜んでいる。」。

ここに書かれたメッセージは、信仰を持っていない人を対象としているのではなく、信仰を持った人たちを対象にしていることがわかります。私たちは、イエス様という存在によって、いま立っているこの恵みに、信仰によって導き入れられました。そして、神の栄光にあずかる希望を持つことに喜びを感じています。ところが、希望というのは、目の前にあるものに対して抱くものではありません。

むしろ、まだ存在しないものに対して抱くものです。ですから、私たちは、まだ見えない栄光に対して希望を抱くのです。そして、目の前の患難さえも喜んでいるというのです。この患難は将来のことではありません。むしろ眼前の問題です。私たちの日々で直面する患難・悩み・苦しみ。それらに対してさえも、喜んでいるということです。

しかし、ふつう私たちは、患難・苦しみを喜びません。これらは、できれば避けて通りたいものです。それでは、なぜ患難を喜ぶことができるのでしょうか。「なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。」。

苦しい時には忍耐が必要です。そして忍耐は錬達を生み出します。神様から与えられた私

たちの本来の姿が、錬達によって生み出されるのです。たとえば、鍛冶屋の職人が刃物を作るためには、まず、鉄を強く火で熱し、激しく叩きます。それを通じて鋼は生み出されて行くのです。叩けば叩くほど、内在した鉄の素晴らしい性質が表に出てくることとなります。

この、激しく叩くという過程が患難に相当するのです。ですので、私たちは、直面する患難を通じて忍耐が生じ、神様が与えた本来の素晴らしい性質が顕在化するのです。このように、神様の愛のなかで受ける試練は、私たちを磨き上げて行くためのものだと考えることができます。そのきっかけとなっているのではないかと考えることができるわけであります。

もし目の前に大きな希望があったとしても、それを見つめる目がなかったとするならば、それを見いだすことができません。しかし、もしその目があれば、見えない希望を見だし、力強く前進することができるのです。希望は失望に終ることがありません。